

課内回覧

財政通信 NO. 5

平成 18 年 7 月

平成 18 年度, 第 1 回目の財政通信です。m()m

6 月議会が終わりまして, これからが 18 年度の仕事本番という気持ちです。

最近, 血圧も安定し, お酒も控えめ? だったんですが, ワールドカップ開催で盛り上がりついでに飲んじゃってます。そして寝不足の状態。やはり睡眠はきちっととらないといけません。皆さんも健康管理には気をつけてください。

さて, 財政課では, 平成 17 年度決算統計の作業が終了して, 今度は, 交付税算定, 事業報告へとモードを切り替え中。決算統計では, 課員一同, 毎日残業しながら頑張っていました。×(@ @)/ 私が手作業でやっていた頃よりは, だいぶ楽になったようです。でも, その分期限も早くなっていて, 大変なことに変わりはありません。

決算といいますと, 分析結果は? ということになります。

残念ながら, 今年も財務指標は厳しい結果となりました。特に経常収支比率が… (ToT) この指標は, 毎年経常的に支出する費用が, 収入に対してどの程度の割合なのか。余裕があるのか, ないのかを表します。今, 本当に余裕がないんです。クリーンプラザ・龍には, 清掃工場建設の償還負担も含めて毎年 13 億円以上も払っているし, 社会保障関連経費も上昇中。反対に交付税は削減され続けている状況なんです。

<`へ`>

16 年度は, 県内 62 の市町村の中で悪いほうから 8 番目でした。今年はよくなったかって? なるわけないです。歳出をいくら節約・抑制しても, 分母の歳入(交付税など)が減少。どこの自治体もよくなりません。それでも, 必死に節約。地道に縮減。健全化進めなければ大変なことになります。

平成 17 年度の決算の概要をお知らせします。

一般会計は, 歳入 225 億 400 万円, 歳出 219 億 6,300 万円。事業の繰越を除いた実質収支(繰越金です。)は 5 億 1,200 万円で黒字です。これは当然ですが, 貯金もたくさん取り崩してます。財政調整基金や減債基金など「一般財源基金」と呼ばれる基金からは約 5 億円。これが実質的な不足です。これを毎年行ったら, 何年もつのでしょうか。心配です。

でも, 皆さんとともに努力してきた結果は現れています。実は, 当初では 11 億円も不足していたんです。相変わらず, 国の歳出削減は厳しいけれど, これからもご協力

をお願いします。

表1 普通会計決算歳入歳出の状況

(単位:百万円)

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
歳入額	26,188	24,658	22,713	22,380	22,492
歳出額	25,231	24,102	22,032	21,730	21,951
差引額	957	556	681	650	541
繰越額	399	184	82	14	29
実質収支	558	372	599	636	512

表2 主な財政指標の状況

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
財政力指数	0.724	0.739	0.744	0.749	0.755
経常収支比率	88.6%	94.7%	93.8%	95.1%	95.9%
公債費負担比率	14.2%	15.7%	17.3%	17.0%	17.7%

近い将来の財政予測です。

財政推計は、これから本格的に検討・調整に入りますが、現段階での私の予測です。

まだ来年度以降の詳細な制度改革はわかりませんが、現時点でわかる範囲でのシミュレーションをしますと、大変厳しくなります。

19年度に、交付税の代替として発行している起債(18年度当初計上の7億6,000万円)がゼロになってしまう。そして、併せて歳出の側で、現行の市民サービスを継続し、さらに事業費を削減しないでそのままやったらどうなるか、という想定をした場合ですが、基金はいっぺんになくなります。毎年の不足額が12億円超ですから、もって3年です。いわば、悲観的なケースでの想定ですが、実はこれが現実に近いんです。

そして、楽観的なシミュレーションで想定した場合はどうなるかです。

交付税と代替の起債が今年のみで、事業費を努力して例えば10%ずつ削減していくという想定ですが、それでも毎年5億円程度不足が生じますから、6年先には基金がなくなります。

このシミュレーションは、両極端のケースと考えていただいてもいいと思います。私は、悲観的なケースに近いと思いますが、少なくとも楽観的なパターンよりは厳しくなるということはお解かりいただけたらと思いますので、そういうことを想定しながら、今後の財政運営を、また仕事をしていかなければいけないと考えてください。

表3 普通会計の基金現在高の状況

(単位:百万円)

基金名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度見込
財政調整基金	1,086	1,086	1,086	1,086	585
減債基金	1,952	1,957	1,964	1,951	1,501
特定目的基金	3,687	3,592	2,809	2,245	1,547
合計	6,725	6,635	5,859	5,282	3,633

非常手段はないのか。(-_-;)

こういう状況にどう対応していけるのか。財源不足をどのように解消していくことができるのか。(?!?)

例えば、特定目的基金を使ったり、遊休財産を処分したりしても、これは1回使えば終わりです。

経常的な収入を増やしていくか、経常的な支出をいかに抑えていくか、なんです。当市の一般財源(市税や交付税など)約160億円のうち、人件費、扶助費、公債費の義務的経費で約50%を占めておりまして、制約されないで使えるような裁量的経費は50%しかありません。この中には、公共施設の管理費も事業費も入っているんです。50%ですと約80億円、最悪のシミュレーションの場合、ここから毎年12億円を削減していかなければならないことになるんです。_| |

表4 歳入一般財源と義務的経費充当一般財源、裁量的経費充当一般財源

(単位:百万円)

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
市税	10,660	10,509	9,919	9,957	10,078
地方譲与税	324	331	355	510	646
地方交付税	4,133	4,319	4,993	4,342	3,947
交付金等	1,726	1,387	1,424	1,501	1,405
合計	16,843	16,546	16,691	16,310	16,076
うち義務的経費充当額	7,460	7,656	7,966	7,992	8,237
うち裁量的経費充当額	9,383	8,890	8,725	8,318	7,839

職員の皆さんには共通認識をもってほしいと思います。<^!^>

まず一つは、地方財政の縮減、圧力というものは、今後も続くだろうということは考えなければなりません。

そして、二つ目には、このままじっとしていると財政再建団体への転落が目前に迫

ってくるということです。

最近になって、北海道夕張市が財政再建団体の申請を表明。実質債務総額が600億円を上回り、標準財政規模45億円の10倍を超え、判断したとのこと。炭鉱が閉鎖されて人口が急激に減少し、さらに交付税改革で歳入にダメージを受け、自主再建の目途が立たなかったのである。ちなみに、龍ヶ崎市の実質債務総額は620億円で、標準財政規模137億円の4~5倍程度。債務は今後減額させていく計画だが、交付税など歳入縮小の影響が大きい。

財政再建団体というのは、企業でいえば「倒産」。国の監理ポストに入ってしまった、市として独自の事業ができなくなる。国の基準を超えた市独自のサービス、または国、県にはない市として必要なサービスがほとんどできなくなってしまうんです。保育料など公共料金も高くなります。マルフク制度や教育施策もできなくなります。そして、職員の給与削減は当然です。(;-;)夕張市のボーナスに対する報道でおわかりかとおもいますが…

企業であれば、従業員や取引先に迷惑をかけるだけでどうにかしのげますが、市の場合には、市民の生活・経済に甚大な、多大な影響を与えるということになります。

つまり、再建団体への転落ということは、絶対に避けなければならない。このことを共通認識としてもってほしいのです。

そして、そのためにも、三つ目には「強い危機感」を皆さんの共通認識としてもってほしいと思うんです。「まだ、どうにかなるんじゃないの？これまでも厳しい厳しいってずっと言って、どうにかなってきたから。」という思いをもたれている職員の方もいると思います。しかしながら、ここ数年の改革で、そうした状況は大きく変わってきています。「なんとかなる。」という意識は捨てて、強い危機感の下に、ぜひ今後の仕事をしていていただきたい、と思うわけであります。(ToT)/~~~

平成19年度予算に向けてです。今から手立てを打たなければ

来年度の予算編成に向けて、どういう姿勢で臨んでいくか、であります。

「できればあったほうが良いな(^o^)という事業」、これは断念又は凍結という強い姿勢で臨んでいかなければならないと思います。これに対して、市民生活の根幹を変えていく、また市としての発展のために不可欠だ、欠かせないという事業に集中し、特化して予算を組むということが、事業の面では必要だと思います。

具体的に取り組むことについてです。(^^)

これまでは、使用料等改正や補助金等の見直しをはじめ、償還延長や資金手当など財政サイドでできる、「先送り」とぎりぎりの支出削減でしのいできましたが、このような「先送り」や「しのぎ」ももはや限界です。

経常経費の思い切った見直しをまずしなければなりません。市の単独事業、また市

の運営している施設の管理運営の見直しなども進めたいと思います。その際には、市民や民間との協働も検討してほしいと思います。

本年度の予算をベースにするのではなくて、ゼロから積み上げをしていく。つまり、すべての事業を一旦スクラップして、本当に必要なもの、求められているものをビルドする。これが当然なんだということを、ぜひとも認識していただきたい、と思います。

毎回毎回、お金がないの連発、そして健全化のお願いばかりで、皆さんは、「なんか夢がないな。」とか、「ここ数年我慢するのはよいが、何年かすればまたよくなるんだろうか。」ということ素直に思われると思います。

現状の中では、予算の面では、昔のような右肩上がりの夢をもてる時代というのは、もう戻ってこないんじゃないか、と思います。だからこそ、予算で仕事をするのではなくて、「人の力」、「知恵の力」で仕事をする市をぜひ目指していただきたい、と思います。

ぜひ、皆さんには、財政危機の現状というものを知っていただき、「単に夢がなくなる」というわけではなく、これを機会に仕事の仕方を変えていく。そして変えていくことによって新しい「やりがい」を見出していく、という前向きな視点で、取り組まれることをお願いしたいと思います。

7月から8月上旬にかけて、財政健全化計画の取り組むべき具体策をまとめてまいります。職員の意見も聴いていこうと思いますし、何か提案があれば、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、次回また(^o^)/~